

第1回尾鷲市総合計画審議部会質疑応答一覧

●第1部会

No	質疑・意見	回答・対応方針	
子育て	1	親子の居場所づくりについて、平時であっても尾鷲市は少ない。福祉センターでも十分でない。もっと気楽に行ける居場所を作るべきでは。今だからこそ、産後うつを抱えるようなママを助けるような場所を。	・まず支援センターは、コロナ禍によって遊具を撤去したり事業をすべて停止しているが、コロナ禍であっても必要であると感じているが、現状ではセンターで、その場所を確保し続けることは難しいが、全て満足いくまでにはいかないが、いつでも気軽に行けるセンターを目指していかねばいけない。
	2	11P熱中症対策で、ミストの導入はどうか。	・全学校導入している。
	3	タブレットについて、通信状態が悪いようであるが、活用できるように。	・学校教育のほうに伝えます。
	4	子サポの充実について記載してはどうか。	・居場所づくりの③のところは落とし込んで次回示したいと思う
	5	子育てについて、子供会など地区での取り組みも必要。	・人口減少により地区での若者の負担が多い。③のところに落とし込みたい。
	6	医療などに防災は不可欠、その視点が全く入っていない。	・国土強靱化計画の中で、議論します。また、災害というところでは、確かに想像できるが子育てに限った項目ではなく、やはり市全体に係る事であるため、大きくは防災で、細かくは国土強靱化計画で。
健康	1	市と市民の役割について、10P11P例えば生活習慣を見直しましょうとか、はっきり役割を記載してはどうか。	・課内では協議している。自分の健康を自分で守るという意識を持って、生活習慣を見直して主体的に健康づくりに取り組みますというようなところを追加していきたい。
医療・救急	1	12P①と②の関係性について拡大と規模の縮小と矛盾があると捉えられるのではないか	・医療需要と医療人口との兼ね合いの捉え方であり、必要な医療分野が変わりつつある。人口の減少とともに入院稼働率は減ってきていることから病院規模②を考えなければならないとともに高齢化に見合った、医療需要を満たすための、医療体制をどの様に構築していくかを①で捉えている。表現を検討する。
	2	11P感染症予防の中に熱中症は含まれるのか	・次回までに訂正します。
	3	12Pの医療の確保について、人材不足は福祉のほうにも言えるのではないか。盛り込んではどうか。	・人口的に若い世代が少ないというのが根本的な問題と考えている。東紀州地域にまで広げて呼びかけていきたい福祉全般についての現状と課題に追記したい。

	4	総合病院で受けられる医療も市外に受けに行ってしまうているのは、総合病院についての周知が出来ていないのではないかと。	・指摘を受けたという事は、周知不足であると思う。内容に関しては、おわせプラスという病院の広報誌で、こういう医療機器を購入しましたとかこういう医師が来ましたとか周知をしているつもりだが、周知不足であったと感じる。流出しているかどうかは正確には把握していないが、尾鷲総合病院で受けられる治療は尾鷲総合病院で受けていただけるような手立ては課題と考えているが、それが何なのかというところまでは至っていない。おわせプラスの見せ方については工夫しなければ。
	5	特定検診に肺がんと検便を入れてはどうか。	・肺がん検診は別料金だが同時に実施している。大腸がん検診は500円で実施している。特定検診とセットでは体制を含め検討する。時期もあるが集団検診であれば可能性はある。
その他	1	ふれあいバスのデマンドについてはどうか。	・公共交通の部会で検討されることとなる。
	2	空き家バンクは防災的には反対する。耐震が出来ていない。防災に大事なことはガソリンを満タンにしておくこと。	・防災のほうに意見があったと伝えます。

●第2部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
基盤整備	1	橋梁がかなり寿命が来ている。総計の中にしっかりといれておいていただきたい。	市内に169橋あり、5年周期で安全度の調査をしている。優先度をつけ、補修しつつ耐震化していくという計画があり、それを指標に入れさせていただいた。
	2	熊野尾鷲道路が開通する。南インターに休憩施設などできるのかどうか、その点を記載してはどうか。	紀勢国道事務所と協議しており、簡易パーキングという形で整備していただく方向となっている。ただ詳細については決定していないので、記載は難しいと考え省いている。国の事業であり、執行と総計とは別になってくると思う。
	3	尾鷲港新田線の事業主体、進捗について	事業主体は三重県、墓地移転については市民サービス課で担当している。用地買収が大体終わってきているところ。墓地移転とスケジュールを合わせつつ、工事になっていくと思う。 今年と来年かけて新しい墓地の設計をやっているところ。来年から用地買収、造成工事にかかっていく予定。新しい墓地ができないと今の墓地の移動ができないので、あと3年は移動ができないものと思っている。墓石の移転に関する補償は三重県から出る。 2900墓石中40%くらいの墓石が管理者が分からない状態。
	4	尾鷲港新田線の見通し(何年までにできるなど)について総計に記載することはできないか	県と協議しつつ進めているが、墓地の移転の状況を踏まえつつ道路整備もできあがるので、それが何年までとは言えない。県の方からも年数は控えて欲しいとのこと。 個人個人が補償をもらって、それぞれが移転しなければならない。墓石を一つ動かすのに、一つの石材事業者で法要も併せ3日から1週間かかると聞いている。この見通しは正直つかないが、少しずつ進めていかなければならない。
公共交通	1	ふれあいバスは今と同じ状態で続けて10年持つか。	経費が上がっていく状況。昨年から既存の交通事業者も含めて議論を重ねている。それぞれ役割の中で、皆さまの要望である少しでも本数を増やすことを、今あるお金の中でやろうとすると、例えば、各地区の奥までバスが走っているところを地域住民の助け合いで代替できないかなど議論はしている。そうすると各地区高齢化率が高いので、なかなか地域のドライバーを見つけるのが厳しい。九鬼でやっているような集落支援員の活用や、福祉では買い物支援的なものがあるので社協とも福祉連携ができないかという話も進めている。もうひとつはスクールバスの活用について既存交通事業者からもご意見をいただいている。今年ちょうど公共交通計画の策定期間なので、既存の交通事業者とうまく連携したものを作ろうと議論を重ねている。各地区にもお伺いして、利用者や地域の皆さんの声を伺うことを検討している。

	2	教育委員会の車を利用させてもらえたら、ふれあいバスを利用しなくてもうまいことできるような状況にあるが、なかなか教育委員会においては、スクールバスが全体に利用できないところがある。	スクールバスを利用されているところは無料だと聞いている。そうすると有料のコミュニティバスとたまたま同乗させたスクールバスとの差が出てしまうという課題もある。子どもたちは無料にして、あとは有料にするかどうかなど詰めないといけない課題がある。また、デマンド交通を求める声も多い、紀北町の「えがお」のような乗合タクシー的なもの。今の定時定路線からデマンドに変えたとすると、経費が倍くらいかかるという試算も過去にもらっている。
	3	今あるものについては、基本的に残すということか。	定時定路線を維持した中で、枝の時間を短縮したり、ルートを変えたり工夫できないかというのは、三重交通さんやクリスタルタクシーさんと話をしてご提案もいただいている。この分野は民間事業者がたくさん入ってきている。トヨタは医療MaaS、ダイハツは福祉系の取組みなど、枝葉の部分だが、主要な幹線のほうを確立していないと、枝葉だけしても話はなくなってしまう。
	4	利用する人は、時間的な自由を何とかしたい。社協が「わごころ」という地域に行って乗り合わせて500円くらいの謝礼でというのを取り組んでいるが、どこまでやっていいのか、ふれあいバスやいろんな業者のこともあるので、なかなか難しい。	社協とも情報共有して、県の方からも福祉公共交通的なもの取り組みを進めて欲しいという話はいただいている。
	5	社協も地域を限定して、試験的にやっている。私たちもそれにちよつとずつ関わっているが、なかなか難しい。何かあった時にはどうする、事故とか保険のことなど。	民間事業者から、枝の部分は地域のドライバーを雇って回すような仕組みはどうかという話をいただき、議論はしたが、責任問題があるので、住民の方がすぐにドライバー登録していただけるかというところがある。
	6	総合計画の中に、社協との連携できるようなことを入れていけるのならありがたい。	地域連携とか、福祉連携、既存交通事業者連携という表記は入れさせていただこうかなど考えている。
自然環境	1	広域ごみ処理施設はこの中に入れていないのか	入るとすれば、2-4の生活環境だと思われるが、今年4月に5市町が合意し、共同処理をする事務になっているので、本市からは負担金として決まったことをするという事なので、総合計画へ載せるのはどうかと思い、掲載はない。5-4の広域連携には少し表現を入れている。
	2	プラスチックの事について自然環境に載せてもいいのでは。	ごみの減量化や不法投棄的な観点、リサイクルの点からして考えどころである。長期的な観点で、不法投棄が海洋汚染につながるので、2-4:生活環境の環境美化でケアできると考える。
	3	シルバー人材センターの方で、プラを仕分けする人員を募集していると聞いたが。	清掃センターでの仕分けをシルバーに委託している。シルバーの内部で人員を募集していると思われる。
生活環境	1	市内に布設している水道管のうち老朽管が多くあるのか？	老朽管はないが、経営戦略に基づき経営状況により計画的な布設替えを実施している。
	2	道路改良工事に伴い水道管の布設替工事を行っているのか？	建設課と協議し、効率的な工事を施工するよう努めている。

防犯・交通安全	1	道路の草刈りなどはどこになるか。	管理者がすることになる。建設課が管理する道路や河川の除草は建設課が行っている。
	2	-	防犯灯の「市民と協働のために」の記載について、役割分担としての記載としては表現が不適切かと思われるので「～します。」といった表現に修正したい。
	3	免許の切り替えが尾鷲でできず、紀北に行かないといけないと聞いたが、どうなのか。	高齢者講習は、自動車学校のある紀北まで行かないといけないが、免許切り替えは尾鷲警察署でできる。
	4	2-5防犯と2-7交通安全の項目を一本にしている件については、よく似たことでいっしょでよい。	
防災	1	地震津波はもちろんだが、風水害による災害も増えつつあることについての予防対策の強化は重要である。	国は情報「避難勧告」・「避難指示」を一本化し「避難指示」のみにするなどとしており、分かりやすく、早めに防災情報を伝達することを心がけている。
	2	防災・危機管理の満足度はどのようなものか。	防災の項目は、重要度も高く、満足度も高い部類に入っている。
	3	防災の取組が地域でうまくいっておらず、そのへんを位置付けてもらいたい。	コロナ禍で避難所運営マニュアル作成支援などを見送っているところで、状況を見ながら積極的に支援していく。
その他 (全体的な意見)	1	第7次総計の中で国土強靱化地域計画をどのように理解していくか。	昨年策定したものは第6次総計に基づく国土強靱化地域計画なので、第7次総計に合う形での改正が必要。部会が終わった後、改めて議論する場を設けたいと考えている。
	2	第7次総計の中でSDGsをどのように理解していくか。	今回は、冊子のこの場所に記載されると示しただけで、それぞれの内容とは一致していない。修正のうえ、改めて説明させていただきたい。
	3	主要事業の期間は、この期間に終わらなければどんどん伸びていくのか。	目標を達成するように頑張るという話。基本的に前期の計画期間が2022年度から2026年度5か年を想定している。継続の事業もある。終わらなければ後期に反映する。
4		事務局では、将来都市像の達成に向けた評価指標を入れないといけないと思っている。基本施策ごとには指標は入れているが、「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」というものに対して、前期基本計画の内容が、どこまで満足度、進捗がいつているかという評価指標をどこかに入れられないかと考えている。毎年やっている第6次のアンケート調査のような項目で、将来都市像の満足度がどうかなど、表記できないかと考えている。	
5	1シート2ページにまとまるか。	3ページにわたっているところは、大事なところは抜けないよう2ページにさせていただくが、まとまらなければ相談させていただく。	
6	計画書が完成した場合の配布先はどこか。	審議会の委員には配布する、それ以外は基本的に電子データでの提供となる。	

7	総合計画は目標・理念で、基本計画は実施計画という位置づけか。	第7次総合計画においては、基本構想の部分と前期基本計画が冊子としてセットになったものとなる。10年間のまちづくりの道筋は基本構想部分になり、5年間の主な道筋を示すのは基本計画部分となる。冊子はあくまで施策の段階であり、委員がおっしゃる実施計画の部分については、その下のさらに各課においての具体的な事業という形で予算化をしていくというもので、冊子の中にはそこまでは載らない。
8	予算化をするにあたり、基本計画が重視されるということか。	そのとおり。将来都市像を達成するために、目指すべき姿や主要施策がそれでいいのかという視点が重要になってくる。
9	実績評価は極めて重要。実績評価に基づいてローリングはやるか。	ローリングはやる。事務事業の評価は、毎年市の中でやっている。去年の審議会の中で施策評価の結果はご説明させていただいた。
10	個々の事業ごとの進捗の一般への周知は。	第7次総合計画という位置づけの中におくと、それぞれの事業進捗をすべて指標に載せることはあまりしない。進捗状況は市民にわかるように、通常各課の業務をする中で発表すると思われるが、計画上では、そこまで細かい進捗や指標は載せないというのが一般的。
11	半期が終わった時に見直しはするということか。	する。前期、後期の5か年ずつに分けてあるということは、前期5年の取組みが将来都市像達成のためにきちんとされているかという検証になる。それを踏まえて、後期基本計画の中で、こういう政策がいいのでは、こういう事業がいいのではと変えていくもの。
12	5年は長すぎないか。これだけ動きの速い時代において、3年でもいいのでは。	市長任期に合わせて4年にしてはどうかという話もあった。この総合計画は、昔は法律上必須だったが今は必須ではないが、これがないと方向性が定まらないので作っている。第6次総合計画後期基本計画が全部終わっていない段階で、新しいものを作っている状況。仮に3年と短くしても、2年目に入ったころにはその次の計画を作っていくということになってしまうので、そこは難しい。市長任期の4年に合わせても、新しい計画を作り始めると1年終わってしまうので、今まで通りの10年という形の5年5年とした。おっしゃるように、随時変えられるようなものであればいいのだが、議会議決が必要なものである。定めると縛りがかかるので、そこにある程度柔軟に方向性を書いて、その下にぶら下がる事業の部分で取り組みを追加していくというやり方もある。あくまで主要施策、主要なものしか書いていないという考え方なので、新たなものが出たら追加していくという考え方。

13	<p>中電の跡地整備計画が発表された時に、年度が入っていた。これはすごいと思った。非常に勇気のある事。ああいうラフデザインを描いて、これは何年度にやるとか、ああいう計画書が出れば見る方も真剣に見る。例え長くてもいい。具体的目標、年度などを示してやれば、例えば予算額などをいければ一番いいんだろうけど。</p>	<p>もっと分かりやすくなるように、指標も含めて考えさせていただく。</p>
14	<p>指標は確かにわかりづらい。もともと行政の話は分かりづらいのが多い。出来る範囲でできるだけ丁寧に勘案したらどうか。</p>	<p>表記の仕方も含めて、相談させて欲しい。</p>

### ●第3部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
農林	1	移住の方へのアプローチについて、地元の高齢の個人事業者の方が後継者を必要としているときに、人材を集める窓口が必要。後継者に土地、モノづくりの伝統を継承していく場合は、人と人との信頼関係の構築まで支援して欲しい。	後継者問題については、マッチングの仕組みづくりを進める。 例えば水産では、会社運営の場合は、会社の方針でその年の募集人員がされているので、わかりやすくやりやすい仕組みだが、一方、個人事業者へのアプローチがなかなかできていないのが現状。 市では空き家バンクに併せて仕事バンクを仕掛けており、仕事バンクの中で、一次産業の登録者を増やしていく必要がある。
	2	三重ジビエについて、猟師の減少や、肉をさばく場所がないことについての対応は？	ジビエを行うには販売・処理の2種類の資格が必要。また、設備投資に費用がかかり、採算ベースに乗せるのが難しい。 ペット用の食肉ならばハードルは下がるが、実際の動きはまだない。
水産	1	九鬼の駅前で養殖事業が行われているが、市として養殖事業の見通しは？	九鬼駅前でスジアオノリの陸上養殖は、高知県の合同会社シーベジタブルが行っており、当初、1000坪の大きさを展開していたが、この会社が全国シェアの大半を占めており、現在は、2000坪に増設し行っている。 尾鷲市としては、陸上養殖以外の海面養殖等も含めて誘致する方向がないか打合せをしている。 ヒロメについては、大曾根等で試験栽培をしており、県内の他の場所に比べると、大曾根では生育が良く地の利があるのでとえられる。 大曾根をはじめ尾鷲市内ではシーズンごとに多様な魚種漁法があり、特に大曾根ではヒロメやマガキ、エビ網などを組み合わせることによる副収入対策を行うことで、例えば1つの漁が年によっては不漁であっても、他の漁で補えることができるようなスタイルを確立していきたいと考えている。
商工	1	計画案について、商工業の部分の書き方が抽象的なので、10年後資料を見た人もわかるように、もっと具体的に書いてほしい。	今後、具体的に記述していく。
	2	尾鷲 Goo の会について、ネットで見た。酒のつまみにうまそうだった。	Goo の会と連携を密にしている。販路拡大で取り組みを進めている。
	3	Goo の会が2、3年くらい前に SNS を立ち上げているが最近全く更新されていない。作っても更新されなければ死んでいるのと同じ。使い方とかサポートが必要。	情報が更新されないとダメ。市としても情報が届くように取組を進めている。

観光・PR	1	<p>観光地のPRをやっているが、どこの観光地も駐車場が問題。黒の浜、村嶋不動滝は、路上駐車地域住民とトラブルもあった。PRするのは良いが駐車場や交通手段も一緒に情報発信すべき。地元と意思疎通して信頼関係作りをしていく必要がある。</p> <p>「WAKUWAKU OWASE」をお客さんに送ると尾鷲に興味を持ってくれるのに、駐車場がないので帰られてしまうのはもったいない。</p>	<p>職員自ら取材して、尾鷲の認知度を上げたいという思いから紹介してきた。駐車場の課題は認識している。解決が難しい課題としてとらえている。地域と協力して、駐車できる場所の確保、例えば出張所を公共の場所を使えないかなど現在も進行中である。</p> <p>観光地に横付けが難しいのであれば、大きな駐車場に止めていただき、新たなモビリティで観光地に行っていただくなど、多面的に考えて協議している。</p>
移住・定住	1	<p>尾鷲に愛着を持ってもらうための活動を、高校生だけでなく、体験学習などを通じて小中学生にも行い、すりこみをすべき。</p>	<p>現在は、尾鷲高校のプログレッシブコースでのみそうした取組を行っているが、今年度から2年生の全員に対して行う予定。いきなり小中学生にまで広げるのは難しいので、まずは高校から段階的に行う。</p> <p>小中学生を対象とした三重大大学の取組の事例が別にあるので、尾鷲高校の取組とリンクさせたい。</p>
関係人口	1	<p>現在の関係人口コミュニティが、10年・20年後も通用するのかわからない。</p> <p>移住者が友達を作れて、かつ既存の市民も入りやすいコミュニティを作ってほしい。</p> <p>関係人口には、既存の市民も含めるべき。</p>	<p>現在は、移住者について移住後の追跡をしていないが、今後は尾鷲暮らしサポートセンターを窓口として、移住者の動向を見える化したい。登録件数の目標は50件。</p> <p>コミュニティについては、行政が介入するのではなく、移住者によるNPOがやってくれるのが良い。</p> <p>市ではこれまでのような行政サービスができなくなるので、共助力を高める必要がある。</p> <p>活動資金を調達する観点では、企業も巻き込んだ取組が必要。</p>
	2	<p>東京尾鷲会の活動状況は？</p>	<p>コロナ禍のため、2年間活動休止中。</p> <p>関係人口づくり、ふるさと納税などで協力してもらっている。</p> <p>現在会員数は約150名。今後も新会員を掘り起こしていきたい。</p>
その他(全体的な意見)	1	<p>尾鷲市には武器が揃っている。それでも伸び悩んでいるのは、市民が武器のことをわかっていないから。</p> <p>成功事例としては、日本トップクラスの空き家バンク。仕事バンクはまだ浸透が必要。「尾鷲暮らしサポートセンター」の存在をもっと知ってもらい、市民が発信してくれるよう、市民向けに発信することが必要。</p>	<p>空き家バンクの取組については、(全国的に)ある程度認知されてきているが、意外と地元地域においては知らない方もいる。今後は地域内においても、仕事バンク含めより情報を発信していきたい。</p>
	2	<p>(丸茂調整監に対して) 尾鷲のイメージは？</p>	<p>(丸茂調整監) 水産業が基幹産業として根付いているイメージ。現場感覚が大切だと分かった。</p>
	3	<p>中電跡地活用の状況は？</p>	<p>スポーツ関連施設の運営が市の担当部分。スポーツに関連した集客を行うため、アクティビティやグランピングの拠点整備を考えている。</p>

## ●第4部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
学校教育	1	主要施策①を施策分野 1-1「子育て」の主要施策⑤に統合するとのことだが、幼稚園・保育園・認定子ども園の棲み分けをどう考えているのか。	保育園・認定子ども園に関しては、福祉保健課が子育て支援に係る予算の中で担当している。また、幼稚園に関しては教育総務課が関わることとなる。 これらの内容を広く捉え「就学前の教育及び保育の充実」として表現するに際して、今回の基本計画においては、施策分野 1-1 の⑤として表現したいと考えている。
	2	尾鷲中学校の給食実施は嬉しいが、一方で給食費や残飯の問題もある。どのように考えているか。	市内小中学校における給食費は 3,600 円～4,800 円と、その学校の事情を考慮した上での設定となっているが、尾鷲中学校の給食実施においても同様に勘案した上での設定が必要となる。 また残飯処理費についても、尾鷲中学校が給食実施すれば増加することが見込まれる為、今後考えながら進めていきたい。
	3	通学路の見直しについて考えなければいけないのではないかと。また、矢浜街道においては道路幅が狭くて危ないところもある。夜間の矢浜街道は気を付けて走行しないと危ない。	平成 24 年度から学校・警察・道路管理者等とともに合同点検を毎年行っており、より安全な通学ができるよう、意見については反映できるようにしたい。
	4	QU調査は何年ほどやっているのか。	やり始めて7～8年になる。
スポーツ	1	スポーツ少年団の団体数や活動はどうなのか。	スポーツ協会としては18団体、うちスポーツ少年団に関しては9団体。活動は競技によってさまざまな状態、なかでも陸上に関しては、消防の方がボランティアで指導いただくなど、熱心にやっている状況である。
	2	競技としてのスポーツだけでなく、福祉保健課でやっている健康ウォーキング等もスポーツとして捉えた場合、参加者は結構多いと思う。	
	3	旧町内から三木浦へ卓球をしにやってくる方がいる。理由を聞くと、「市内の卓球サークルは人が多くて順番がなかなか回ってこないから」とのこと。このような交流の仕方はいいなと感じた。	市内には様々なスポーツのサークルがあり、気心知れた仲での交流活動をされているが、一方で、年に数回程度の大会・交流会などを開催し、他サークルとの交流も生まれている。現在はコロナ禍で開催できていないが、このような部分をきっかけに、今後も交流の促進に努めたい。
	4	生涯スポーツ・サークル活動に関する情報の収集方法が分からない。	市内には様々なサークルがあり、練習場所も様々。 市の体育館に声掛けいただければ、相談できると思う。

郷土文化・歴史	1	今回、7次総計で新たに出た分野・項目と思われる。非常にいいことだと思う。	計画体系及び施策体系を考案する中で、事務局案として「郷土文化・歴史」を提示し、審議委員の皆さまから特にご意見もなかったため、このようになっている。 その後、第5回審議会のワークショップにおいて、重点施策について意見交換を行い、「郷土を愛し、学び、伝えるまちを創る」を実現するためには、市内の大人・子供に向けて、地元の人が地元を深く知らない、市外の方に良いところを伝えられない。「尾鷲には何もない」と言うことになってしまうことから、郷土に関する学習機会の向上や郷土に関する学習環境の構築が必要との意見に至った経緯もある。
	2	文化会館・天文科学館・古道センターなどに、移住者の案内の中で年に複数回行く。行き始めると面白いのだが、触れる機会が無くて行かない、という方もいると思う。	古道センターとは、今後も相互に連携していきたい。
	3	先日、古道センターにおける写真家のトークイベントに参加した際、参加者の中に松阪市在住だが尾鷲の自然が好きで、特に土井竹林を撮影するために5年程通っているという。そんな方もいるので、尾鷲の豊かな資源があることを認識しておく必要がある。	
	4	他の施策分野に比べ、内容が薄いと思う。本部会で話し合っ、追記できるよう深めていきたいが、現時点でアイデアが思い浮かばない。何か良い案があれば提示してほしい。	今後もそれぞれが思案のうえで、次回以降の審議部会にて議論ができればと思う。
国際交流・多文化共生	1	プ市との人的交流について、当初から関わってきた。最近はお金がないからかもしれないが、プ市との交流が途絶えているように思う。	プ市に関しては、展示の取組を役所内で実施するなどしている。人的交流については、市民の方からもそういった要望をいただくことがあるので、毎年は難しいかもしれないが、国際交流に関する基金を活用する中で取り組んでいきたい。 また、多言語標記については和歌山から東紀州周辺における誘客の取組が進んでいるところであり、国際交流協会と協力しながら、誘客に関する受け入れ態勢の構築に努めたい。
	2	コロナで人的交流ができないと思うので、web会議システムなどを活用して、定期的な交流ができないか。予算も掛からず、様々な人と交流ができると思う。 プ市も過疎化・少子高齢化等により、若者が少ないと聞いている。同じような境遇・課題のある都市でもあるので、進めてみてはどうか。	市内小学校においても、web会議システムを用いて他国の小学生との交流が行われていることから、そのようなことも実施していきたい。
	3	外国語表記について、熊野古道伊勢路に関しては、すでに外国の方が作成しているwebページがあり、外国の友人などにはそのページを紹介している。 市のホームページなどを一から多言語化するのには難しいかもしれないので、そういった方に協力いただき、ページを参照させてもらうことも検討してはどうか。	そのwebページについて、また教えていただければと思います。

	4	市民満足度の基準は何なのか。 毎年、満足度は調査するのか。	令和2年度に実施した、「まちづくりアンケート」における市民満足度を記載している。平均点は3点。 国際交流に関しては、各取組を継続推進しながら、新たな取組にも着手し、市内における国際交流の機運を高め、国際交流活動にそれまで興味関心のなかった方に対しても認知をいただくことで、満足度の向上に資すると考え、このように記載をしている。 アンケートは各施策の分析のため毎年実施するものの、今回の基本計画への記載に関しては5年後、10年後の数値を記載している。
	5	6次総合計画においても、アンケート調査を行ったのか。 その時と比べて、現在の満足度はどう推移しているのか。	6次総合計画後期基本計画(平成29年度)以降に関しては毎年実施している。国際交流に関しては、それほど満足度に変化はない。
	6	英語を話す外国人が市内には少ないので、「なぜ英語を勉強しないといけないのか。」と思う子供たちがいると聞いたことがある。	世界の標準言語が英語や中国語となっている中で、小学校においても英語の授業が始まっており、またオンラインでの他国との交流が可能となっていることから、英語に触れる機会・きっかけが増えると思うので、そこを捉えていきたい。
	7	多文化共生と国際交流は別物だと考えている。 国際交流＝英語のような縛りにならないよう、広い視野で取り組んでほしい。	どちらも外国人に対しての施策と考えている。国際交流は来訪された外国人に対する部分。多文化共生は、在住外国人に対する部分を表しており、英語圏の方以外を否定するものではない。
	8	用語として、他市町も国際交流や多文化共生を記載しているのか。	記載している。 ただし、施策分野として「国際交流・多文化共生」を掲げる市町は、在住外国人が多数いる市町が多く、在住外国人が少ない市町では、外国人に限定しない様々な「交流」の中の1施策に国際交流を位置付けたり、「多様性社会(ダイバーシティ)」のなかに多文化共生を位置付けたりしているところが多いと感じている。 そのような中ではあるが、本市においては施策分野として「国際交流・多文化共生」を据え、各取組を行っていきたいと考えている。
	9	施策分野として「国際交流・多文化共生」を掲げている理由の一つに、プ市との姉妹提携が関係しているのか。	これまでプ市との相互交流もあり、総合計画でも大きく取り扱っていたのだと思う。「交流」や「多様性社会」などの1項目に埋もれてしまうよりは、このほうが良いと思い記載した。
全体	1	誤字・脱字等については、行政担当者にて修正いただけるということか。	そのとおりです。
	2	6次総合計画に比べ、丁寧に記載頂いており、わかりやすいと思う。	6次総合計画に比べ、「主要事業」の階層まで記載をしていることが1つの特徴ではないかと思う。
	3	SDGsのアイコンは全て同じなのか。	現在のアイコンは仮置きであるため、今後、それぞれのシートに適合するようにアイコンの修正を行うこととしている。

●第5部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
行政運営	1	現状と課題において「広報活動で様々な手段がこれから出てくることになる」と記載されているが、主要事業では、市の広報紙の発行事業とホームページくらいしか記述されていない。SNSについても、主要事業の中に入っていてよいのではないか？	広報紙、ホームページをスタートとしているが、ツイッターやインスタグラム等の SNS のツールは整えており、情報発信については、現在、庁内の情報発信ワーキンググループにおいて、今後の情報発信への取組みの検討を行っている。SNS については、主要事業として記述する前提で修正する。
	2	情報公開について、公開することが前提としてある中で、個人情報等、隠さなければならないものもある。そのスタンスを明記する必要があるのではないか。	対応・記載いたします。
	3	まちの将来像の実現度について、0%、50%、100%というのは安易ではないか。	10年後に100%を目指すのは確かなのだが、現在の立ち位置を何%とするか、もしくは設定している指標自体が的確かについては、今後も部会にて議論したい。
	4	まちの将来像の実現度の計算方法が分からない。 また、具体的にどこまでのレベルに持っていきたいのかが分からない。 何をすれば 100%になるのかを明記してはどうか。	毎年まちづくりアンケートを実施する中で、各施策について満足度を調査していることから、本アンケートを活用する中で実現度を数値化することも1つかもしいないが、何が的確かも含め部会にて議論したいところであるが、一度持ち帰らせていただく。
	5	(担当課より) 行財政改革の推進について、人材育成に関する記載をしているが、行財政改革は人材育成だけではなく、政策調整課の考えを含め今後検討したいが、意見を頂けないか。 また、指標の「職員研修の受講数」については、適当かどうか再考したいが、意見を頂けないか。	(委員) ・三重県では、職員の満足度をアンケートで聞いている。あれは尾鷲でやってもいいと思う。自分の仕事に満足している職員の比率を測るものがあってもいいのではないか。 まちの将来像の実現度を、アンケートを通じた市民の満足度として評価するのであれば、一方で市職員の仕事に対する満足度のアンケートを取ってもいいのではないか。 ・何のために行財政改革を推進するのか、という視点を加えるべきではないか。
財政運営	1	京都市では財政破たんが不安視されている。尾鷲市でも都市計画税の絡み等々で財政調整基金の取崩しがあったりした。今少しずつ立て直しているが、財政破たんを見据えて、今の尾鷲市の現状はどうか？	財政の健全化度を判断する基準は、国の定める「健全化判断比率」の4つの指標がある。尾鷲市は、現状その基準を上回っていない。ただし、財政運営を行っていく上では、ある程度の基金がないと余裕がなく、予算が組みにくい状況となる。今ようやく、ふるさと納税の増加もあり、財調、ふるさと応援基金が増加しつつあるため、危機的な状況かといえ、今現在はそうではないと思っている。 しかし、将来的に様々な事業を行いたい、進めていくものがあるので、そのための財源を鑑みるとまだ安心できる状況ではない。

	2	そのために打つべき施策は、この総合計画に反映されるのか？	目指すべき姿にも記載してあるが、新たな財源の確保ということも含め、今、財政健全化計画を立てて対策をおこなっている中で、先ほどの「ふるさと納税の増加策」や「遊休市有財産の売却」などで財源確保に努めている。 あとは、歳出のほうだが、今までもずっと経常経費の削減等をやってきたので、なかなかこれ以上の削減は難しいところがあるが、より効率的に、最小限で効果を生むような歳出の組み方をしていくしかないと考えている。
	3	そんな中で、病院事業の経営支援をしていくということだが、それでよいのか。	病院経営については、一般会計から繰出しをおこなっているが、両会計のバランスを見ながらということになる。病院への繰出しの中には、特別交付税で措置される制度も新たなものが出来てきているので、そういったものを上手く利用し、出来る範囲で病院経営を支援し、一般会計にも負担が過度に掛からないようバランスを考え、繰出しをしていくしかない。
	4	ふるさと納税は、まだしばらく続くのではないのか？財政運営上、今ふるさと納税がかなり増えているという話であれば、現状と課題のところや、主要事業に、ふるさと納税を強化していくということは書かないのか？自主財源として凄く重要ではないか。	今コロナ禍の中で、外出を控え、そういったものに回すということで増えている部分も一定あると思われるので、コロナ禍が明けた後で、将来的にふるさと納税を続かせるような施策も必要だとは思う。その辺を上手く書けるよう検討したい。 48 ページの「関係人口」のところに「ふるさと納税事業」という括りで、尾鷲を応援いただくという観点から、その一つの形としてふるさと納税事業を記載しているが、今言われたように、実際には財源の確保に大きく寄与する可能性もあるし、制度がいつまで続くかということもある。今の好調を持続するためには、さらに努力していく必要があるという現状もあるが、その辺は確かに財政運営に寄与する、新たな財源として。
	5	そのとおりで、新たな財源を見つけるという、その一つとしてふるさと納税があるよという書き方もあるだろうと思う。それから、地方税管理回収機構について、三重県はこれからもずっと存続するのか？愛知県はなくなった。	三重県内の市町は全て、この機構は必要であるという意見で統一されており、本市でも費用対効果が出ているので、続けたいという意見である。
	6	計画期間中にあれば、それで良いとは思いますが、どうも及び腰で、無くなっていきそうな気がしないこともないので。 一定の役割は終えたというフレーズを愛知県では聞くので。	
公共施設	1	69 ページの指標の 3 番目の「公共施設の総延床面積減少率」については、2 番目の「公共施設の長寿命化対策率」と矛盾するような…何でもかんでも減らしたらいいのかなというところで、例えば一番下を「利活用が見込めない公共施設の総延床面積減少率」だったら分かるが、この減少率が良く分からないなと思う。	総延床面積の減少率というのには 2 つあり、使わなくなった施設を除却することによる減少と、もう一つは複合化する、2 つの施設を複合化して床面積を減らすという面の 2 つがある。その辺で指標としてどういうふうを書くかということになる。
	2	その上の「公共施設の耐震対策率」が現状で 0%というのは？	これは、現状において耐震化されてない施設がいくつかあるが、この状態を 0%とおいている。

	3	そういう意味ですか。かえって市民に不安を与えませんか？全部の耐震化率があって、それを少しでも上げていくという方向性、その時に耐震対象の建物の除却も含めて耐震率を上げていくという、そのストーリーでないと、尾鷲市で耐震化率がゼロじゃまずいよなということになる。	今、財政課長が言ったのは、現在の未耐震化建物を今後どうしますかということだが、それよりも全体の耐震化率を最後 100 にもっていくということで。ちなみに、現状の耐震化率は 60%、70% くらいか？ 今その数字は把握していない。
	4	長寿命化対策率も同じ考え方？	そうです。
	5	総延床面積減少率については、先ほど言われたような注釈があると分かるが、これだけ見ると少し分かりにくいという意見だが、指標としてあった方が良いのか？	これを指標として設定するのが良いのかどうかは検討したい。
	6	公共施設の一覧で、見込める・見込めないとかのリストはあるのか？	耐震化が必要な施設、長寿命化等が必要な施設、除却が必要な施設それぞれリストを作って、計画的に進めていくようにしている。
	7	耐震化等が必要な施設の中で、例えば市役所としては必要ないが、民間だったら使えるよという施設はあるのか？ やっぱり市役所としては耐震化しないといけないのか、耐震化しなくても民間だったら使えるような施設とかはないのか？	たぶんそれはやってはいけないと思う。 もう一つは、民間は利益追求という面もあるので、それにふさわしい施設でないと受けてもらえない、例えば文化会館のような施設ならば民間参入もあり得ると思うが。
広域連携	1	多様な主体との連携の推進のなかに、「産官学金労言民士」とあるが、何のことか市民はわからない。 国や県との人事交流によって出向している・来ている職員がいると思うので、そこは連携として記載しなくてもいいのか。	国や県との人事交流については、記載内容について検討するとともに、それらを「広域連携」に当てはめるか、「行政運営」に当てはめるかについても併せて検討する。
	2		主要事業・指標について未記入となっているが、今後具体的に記載し考え方を示すため、次回の部会にてご議論をいただきたい。
	3	広域ごみ処理施設に関する記述は、広域連携に入ってくるのか。生活環境とは違うのか。	広域的な連携によるスケールメリットを活かした体制づくりという意味合いで記載している。
協働・平等	1	指標の内市民相談件数について、目標とするなら相談件数は減る方がいいのではないかとの意見が表出された。	相談件数を満足度に変更する。
	2	現状と課題に空き家対策について多く言及されているので、空き家に関する指標(例えば、特定空き家数の減少など)を入れる方がいいのではないかとの意見が表出された。	現在、実態調査を行っている段階であり、指標として設定することは困難だと考えている。